

ひがしなるせ

議会だより

No.118

平成13年1月20日
発行



ジュネス栗駒スキー場に2基目の鉄塔

もくじ

- こんなことが決まりました……………P 2
- 一般質問に5人が登壇……………P 5
- 村長の行政報告・教育行政報告……………P11
- こんにちは常任委員会です……………P12
- こんな質疑が！……………P14
- 請願・陳情などの処理状況……………P16
- 私もひとこと(五里台・高橋栄作さん)……………P16

発行■東成瀬村議会
編集■議会広報対策特別委員会
〒019-0801 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字仙人下30-1
TEL 0182-47-3411

携帯電話

村内通話可能地域 90%以上に



H12.12.20 移動通信施設竣工式 (ジュネス栗駒・ホテルプラン)

こんなことが決まりました

12月定例会

十二月十二日から十五日までの会期で定例会が開かれ、本年度の各会計補正予算や条例改正案などのほか、村道の認定などが提出された。会期の最終日には、議員発議による国の機関などへの意見書案などが追加提案され、これらすべての議案などは原案可決・承認とされた。

移動通信用鉄塔の条例を改正

移動通信用鉄塔設置条例の改正案は

全会一致で可決された。

移動通信用鉄塔設置条例の改正案は、ジュネス栗駒スキー場にてきた村内二番目のジュネス栗駒基地局の完成により変更したもの。これは、県内はもとより国内においても、都市部に劣らない携帯電話の通信可能地域が九十%以上という輝かしい成果となり、新たな二十一世紀を迎えるにあたり、

たりすばらしいものとなった。試験電波は、十二月十六日から発射しており、十三年四月一日から供用される。十二月二十日にはジュネス栗駒スキー場でこの鉄塔の完成祝賀会が開催された。スキー場利用者にも大いに利用されることになるものと思われる。

年頭のあいさつ



議長 長藤 正次郎
佐藤

新年明けましておめでとうございます。
村政運営につきましては、皆様のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。
さて、村で今年直面する課題の主要なもの、昨年度より準備なされていたものですが、その一つ

に村小学校の1校統合があります。伝統ある各小学校の閉校と相まって新小学校へと新たな学校教育と地域のあり方へ推進を図る所存であります。
また、昨今の社会変化に対応した新たな情報連絡網整備のための防災施設の建設が本格的に始まり、それは住民サービスに大きく寄与するものと思われまます。
村議会としましては、この二つの課題を含めさらに新時代に対処すべき役割を自覚しつつ、皆様の期待に添う決意を新たに、新年のご挨拶いたします。

農村交流センターが完成

十二月に完成したこの施設は、新年から使われることになるため使用料などの条例の整備がされた。

田子内の旧公民館跡地に建設されたこのセンターは一月五日から使用することができるようになった。
この施設は、中山間地域総合整備事業で建設され、使用料は村内の他の施設を参考に算定された。
使用料は、全館使用で一時間につき五十円となり、冷暖房の使用時は二十%の加算がある。
また、一時間以内のときは一時間とするなどの料金が決定された。

公民館設置条例の改正

東成瀬村公民館を役場所在地に移転

公民館の本館の所在地を旧田子内公民館から、現在の所在地に移した。
東成瀬村農村交流センターが建設され、この中に東成瀬公民館田子内分館を設置することになった。
またこれにより、関係する条例を整備する必要が出てきた。
公民館単独での設置される場所は、東成瀬公民館椿川分館のみとなった。



H 12.12.26 東成瀬村農村交流センター竣工式

村道を二路線追加

滝の沢上道線

中森線

村道滝の沢平良線から分岐し、佐々木廣宅前を経て農道滝ノ沢二期線に接続する道路

国道三四二号より分岐し、高橋武宅前を経て村道逆川線に接続する道路

主な予算・条例など

案 件	議決内容
12年度一般会計補正予算 〈歳入歳出に 137,016千円を追加〉	原 案 可 決
12年度国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算 〈歳出の組み替え〉	
12年度国民健康保険特別会計（直営診療施設勘定）補正予算 〈歳出の組み替え〉	
12年度老人保健特別会計補正予算 〈歳入歳出に63,129千円を追加〉	
12年度介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算 〈歳入歳出に30千円を追加〉	
12年度介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）補正予算 〈歳入歳出に50,153千円を追加〉	
移動通信用鉄塔設置条例の一部改正 〈ジュネス栗駒基地局を追加〉	原案可決
農村交流センター設置の条例 〈12年12月に完成したため、使用料などを決定〉	原案可決
公民館設置条例の一部改正 〈農村交流センターの完成に伴い分館の所在地を訂正〉	原案可決
村道路線の認定について（2路線） 〈滝の沢上道線・中森線〉	原案可決

◎一般会計補正予算の主な事業

（100万円以上を掲載）▲印は減額

- ・ 公共施設解体委託料 ▲ 1,616千円
- ・ 老人保健特別会計繰出金 18,939千円
（老人医療費支払いのために
国・県補助金の清算まで立替えをする）

- ・ 介護保険（介護サービス）繰出金 50,000千円
（年度末まで幸寿苑に貸出し）



幸寿苑に東小児童が訪問 (H 12. 6. 29)

- ・ 観光広告事業 1,785千円
（村内の観光地のテレビCMなど）
- ・ 間伐材用途開拓実証事業 3,990千円



（新生小学校の児童用机、椅子を購入）

- ・ IT学習推進事業 8,865千円
（社会人を対象とした事業）
- ・ 地域福祉基金積立事業 50,000千円
（一時基金を取り崩したものを
再度積み立てるもの）

※ 陳情・請願については最終ページに掲載

ここが聞きたい!!

い つ ぱ ん し し つ も ん

(一般質問の記事原稿は質問した議員本人が執筆しております)

十二月定例会の一般質問には、五議員が登壇し
次のような事項について、それぞれ村の考えをただした。

佐々木正夫 議員

◇集会施設の老朽化対策

◇小学校一校化に伴い各地区の地域づくり対策

高橋 健 議員

◇パークゴルフ場造成のねらい

◇地域づくりと人づくり

◇豪雪対策での支援と成果

伊勢谷政雄 議員

◇小学校統合関係

◇消防広域分署の建て替えについて

◇村事業の委託料と工事入札関連

富田 義行 議員

◇村内農業をまもる対策を

◇企業誘致や起業促進など新たな雇用の場確保に総力を

◇役場庁舎の電話受信システム改善と道路除雪行政の関連

◇コンピュータによる行政情報管理体制
インフルエンザ予防接種と理学療法士
つきの機能訓練を

◇報道されたレンタカー問題で、村と関
わる件の内容と経緯

柳 邦夫 議員

◇地縁法人申請に伴う部落呼称について

◇風力発電の構想

◇ゴミ対策のあり方



いっばんしつもん

集会施設の老朽化対策は



佐々木正夫 議員

村長 強い要望のある地域から優先して対応

問 各地域に設置されている、「部落会館」あるいは「生活改善センター」などの施設は、昭和四十年代に建築されたものが多く、だいぶ古くなってきている。地区の状況を見ると「人口の減少」などで施設を維持していくのが厳しくなってきたことから、村で各種の制度を活用して、改築及び新築する必要があるのではないかと思うが、村長の考えは。

村長 現在各地域に点在している集会施設は、部落会館や農村生活改善センターなど、補助事業で実施したものと、単独で行ったものにと大別される。また、大変老朽化していることも事実だ。

これからは色々な補助制度などを取り込み、同時に地域の皆さんの意見あるいは負担なども充分参酌しながら、そういう希望、要望の強い地域から優先して対応していきたい。

防災機能の併設は

再問 現在の施設は、建設当時には場所や立地条件など色々考慮されて建設されたと思う。これから建設される施設には、その地域の生活の安全確保につながると思うので、消防ポンプなどの防災機能も併設すべきと思うが。

村長 考え方としてはあるだろうと思う。小集落の集会施設の一部に消防ポンプを置くことによって、常に出し入れすることも可能だし、利用する際もいいと思う。集会施設を造る場合にはその点も含めて検討したい。

問 各地区で実施している事業は、小学校を中心にしたものが多く、例えば運動会や講演会などあるが単純に考えると、これらの事業が実施出来なくなることが予想される。さらに村の現状を見ると、今後も人口の減少と超高齢化社会は続くものと思われる。

再問 行政主導だと言わないためにも、各地区の統合後の跡地利用方法などを、コミュニティ組織が中心となつて検討を行つてもいいのではないか。

村長 集落の皆さんの意見を参考にしてより使い手のあるものにする。その過程では解体もありえるし、解体後にどういう施設が必要かということも含めて、トータルを考えていきたい。



新築された農村交流センター、木材を多く使用、木の香りがいい

いっぱんしつもん



H12.11.24 議会にてパークゴルフ場を視察 (岩井川のカントリーパーク)



高橋 健議員

パークゴルフ場でもっとも配慮した点は

村長 〓 軽易で親しめるコースづくり

問 パークゴルフ場を造成するとき、もっとも配慮した点と、どんな年齢層を想定した設計か、また管理・運営はどのように考えているのか、課題とあわせて聞く。

村長 全国レベルの大会をも想定して、国際パークゴルフ協会からコース造りの指導も受けて、軽易で親しみやすい、ゆったりしたコースと三代代が同じ条件で遊べるよう配慮している。自然環境の視点から除草剤や殺虫剤をコースに使用しないよう工夫している。来年の盆前には九ホールを供用したいので、管理人を配置する考えだ。公園の維持管理は、原則的には村で行い、パークゴルフ場の運営は秋田栗駒リゾート株式会社へ委託したい。パークゴルフの普及が一番大きな課題と考える。

村民による多くのクラブ・グループで行事などに取り入れて、競技会を開催するなど普及に努めていきたい。

生き生きした

二気な村に

問 地域づくりは人づくりであり、人づくりは人使いと思う。

人それぞれの個性や能力を引き出すことが生き生きとした元気な村になる。村発展計画で示している中期計画の重点項目を、判りやすく住民に提示し周知を図るべきであり、その一つとして年間、月間のテーマを設定し村民がそれに向かつて進む、これが元気アップにつながると思う。
村長 スポーツ月間などはテーマを設定して計画的に進めているものの一つであろうと思う。夏祭り・雪祭りもその時

期に合った、自然と環境にあったテーマを設定して進めている。

ただこれからも、もっと具体的なテーマを設定して強力にあるいは集中的に行うことが大事である。

豪雪対策の

マニュアルづくりを

問 まだ記憶に新しい二月の豪雪への支援体制とその成果を聞くとともに、雪対策のマニュアルづくりを進めるべきと思うが、考えを伺う。

村長 災害対策本部を設置し、各課が連携して関係機関と協議を重ねながら、人身事故がないような対策をとった。私どもに聞こえてくる範囲では、きめ細かな対策であったと総括している。特に道路の除雪の徹底、水路の水詰まり対策、雪庇

の除去、一人暮らし・高齢者世帯などに対しては社会福祉協議会、民生児童委員を通して要請があったものは、ほとんど対応できた。マニュアルについては、防災計画の見直し中なのでその要素も取り込みをした。

いっぱんしつもん



伊勢谷政雄 議員

統合後の児童通学をどう進める

村長 羽後 交通委託で

問 小学校統合後の児童の登下校時のスクールバスは、どのような方向で進められているのか。

また、吹雪や強風またはクラブ活動などでの下校時の運行は、どう対処するのか。

村長 統合後の児童通学については、岩井川以南については羽後交通に専用バスの運行を委託し、安全確実に登下校出来るように準備中である。

緊急に下校させる場合についても、事前連絡をして随時バスを配車する。

また、小学校では放課時刻が学年、曜日によってまちまちなので、下校時はそれに合わせて何回もバスを配車することになる。

体育館暖房の

取り組みは

問 小学校は統合に向け増改築工事を終え統合を待つ

ばかりとなったが、今回の工事では体育館への暖房機器の設置工事は行われなかったようだが、見送られたのはなぜか。

現状のままで充分と考えているのか、村の対応を伺う。

村長 今回の改修工事においては、補助対象外であること、また財政事情などによって暖房機器の取り付け工事は出来なかったが、今後設置出来るように、燃料の配管や配線工事は済ませている。

今後の検討課題としたい。

再問 暖房工事について配管は行われているとのことだが、その配管を利用して近いうちに暖房機器の設置を考えていると理解してもよいのか。

教育長 配管、配線をしたという事は、できれば近い将来取り付けたいという希望を込めての工事である

ということである。

消防分署建て替えの

説明を

問 広域消防分署が、地域防災センターに組み込む形で建て替える事となったが、広域圏との関係や建て替えることとした経緯についての説明を伺う。

村長 消防広域分署の建て替えについては、先般の臨時議会において承認を頂いたところである。

村では周辺整備面などで、増田警察署を窓口として秋田県と協議を行ったが、駐在所移転となると県有財産処分に関わる事、代替え地や補償費などの問題が明確になった。

一方現在の分署については、建築年数や規模が小さく今後改修工事を行っていく必要があることから、防災施設と消防機能を一体

化した施設建築としたいというものである。

広域圏との協議を行い「消防機能が維持できる規模と施設が確保できれば支障はない」という方針が示された。

面積規模、事業費とも当初より大きくなったが、住民の利便性、消防、防災機能が有効に機能するものと考えている。



改築される予定の東成瀬分署

いっばんしつもん



自然乾燥米でうまい米づくり

(田子内にて)



富田義行議員

自然乾燥米（ハサ架等）農家に助成を

村長 Ⅱ 調査し積極的に対応する

問 畜産農家の稲わら確保や、特産野菜の品質向上に欠かせない良質堆肥を確保するうえで、自然乾燥米は村でどうしても残していかねばならないコメの生産システムだ。

単に自然乾燥は難儀しているから助成ということではなく、和牛飼育と結び付けた複合農業の基本をまもっていくという観点で、来年度からの助成金支給にむけた検討を是非ともごぞむ。

村長 畜産農家だけでなくトマト農家などの堆肥確保、地力維持ということから大変大事な課題だ。財政状況とも関わるが、JAこまちとも協議しながら農家の意向を検討し、十三年度に行われるか十四年度からなるかを調査し積極的な対応をしたい。

カメムシ防除にも

農業助成を

問 水稲については、イモチ病対策として、先進的な支援対策がとられているが、近年はイモチ病に加えてカメムシ被害による品質低下が農家所得に影響を与え、今年も等級低下の一要因として斑点米が指摘された。

米価がこのような現実のもとで、ある程度広域的な被害を特徴とするこの農業防除費についてイモチと同じように小回りのきく支援策をとり、村全体の被害防止対策をつよめることを提案したい。

村長 村のカメムシ被害による等級の格下げは二十五・五％と憂慮される事態になっている。草刈りとかこまめな管理が一番大事なのだが、議員が言うように昨今の状況は全村一律防除ということがむずかしくなっている。

農業防除は、穂イモチ対策をやる頃が効果的と言われており、これも今後の検討課題として取り上げていく必要があると考える。

農業公社設立の本格的検討を

問 有機複合農業の推進、農業の担い手確保、農作業の受委託体制の確立と生産コスト削減、荒廃農地の復元のどれをとっても村農業の緊急課題であり、文字通り本腰を入れなければ打開できないものばかりだ。こうした村農業の基本課題に取り組みにあたって、第三セクター的な農業公社の設立がわが村でも展望される時期にきており検討が急がれる。

また、営農指導員も村が主導で早く配置すべきだ。

村長 とくに村にとっては受委託が一番の問題だ。公社は経営が大変むずかしい課題で、主体的に農業に取

り組んでいく方々やJAなど農業団体と相談し、十分な調査・研究をしなければならぬと考える。

一年や二年で出来ることではないが、緊急性があるということだけは充分認識しており、その方向で努力したい。指導員配置もその中で対応したい。

新たな雇用の場

確保を

問 これだけ雇用状況が悪化し、人口減が懸念される状況に直面している村だからこそ、成果をあげるまであきらめない雇用確保の集中対策をとるべきだ。

村長 福祉・保健関係で民間の施設誘致を考えていく必要がある。むずかしい部分もあるが具体化した場合は報告したい。

いっばんしつもん



柳 邦夫 議員

地縁法人申請と部落呼称について

村長 十分な配慮が必要と認識

問 今日では「部落」という言葉は、差別用語として新聞、その他マスコミなどでも使わない言葉となっている。

しかし、村の広報など印刷物では、部落という字句は頻繁に公然と使われ我々も又不信感を感じないが、これが国県に提出する書類では受け付けられない。

こうしたことについて住民の指導、教育面も含め村長の考えを聞く。と同時に以前は、不動産取得に伴う団体登記は不認定であったが、数年前から自治法が改正され、自治体の長が地縁法人と認めれば、即、登記も可能と聞く。

このような法改正などについては、各集落の長にも開示すべきと思われる。

村長 「部落」という差別用語は新聞テレビ、公共機関では使わないのが現実で

ある。関東関西、特に西日本では、部落開放同盟や同和対策といった深刻な問題として扱われている。

地域的、歴史的背景もあり、国の同和対策の面からも用語は法律的にも認められていない現状である。

村としては、この事について特別な指導などはしていない。ただ注意を要するのは、例えば我々が首都圏なるせえなどで、どこそこ部落出身といった場合にその中に相手の嫁さん婿さんがいて問題化する事も懸念され、又村にも色々な方が入って来るので職員も含めて十分な配慮が必要と認識する。

地縁法人については、今まで登記認定等難しい状況であったが、現在は規制緩和されており、地域の連体・活性化が図られるのであれ

ば制度的に認められるものと思われる。

風力発電の風況調査の徹底を

問 村長は風力発電に大変関心を持っているようだが、その後の進捗状況、場所等についてアンケート結果も含めて何う。

私も危険の伴う原子力や限りのある化石燃料に依存したエネルギー開発から、クリーンエネルギーと言われる太陽、風等のエネルギーを利用した電力開発は、地球上の重要課題とは思っているが、風力発電の場合は概ね海岸端である。

それは、海からの風は安定しているから、だと思っ。内陸部、隣接町村の計画も聞かない。

他の町村に先駆けて借金してまで実施すべきものか、時間をかけた徹底した風況

調査を望むものである。

村長 海岸端の風力に匹敵するような地域があれば、風力発電が村の中では一番可能性が高いという構想のもと九月からスキー場内でも風況調査を実施している。なおこれはあくまでも可能性調査で、将来的に可能な場合は事業化も検討ということだ。

集落内の焼却炉と

「三」対策は

問 ダイオキシン対策として、集落内の焼却炉を廃止し更新しない方針と何うが、山や川がゴミ捨て場とならないか憂慮する。

村長 広域の焼却施設での処理を原則としている。四月から具体的の実施し、保健所でも指導徹底する。投げ捨てはモラルの問題で、地域住民全体の啓蒙活動として運動を展開する。



風力発電も検討

(地域新エネルギー策定委員会 H12.11.8)

行政報告



村長



松山台地区で成瀬ダムの説明会を開催

(H 12.12.18)

除雪体制は機械力や人員を増強

▼除雪体制は、生活路線の整備、除雪延長の増加により機械力や人員を増強。
 ▼ジュネス栗駒スキー場に建設していた二本目の携帯電話鉄塔工事は、順調に進み十二月十六日から通話可

能となる。

村内の九十%以上の地域がカバーされた。
 ▼雄勝中央病院の移転改築工事は十三年度に着工、十五年度完工、十六年度新病院で診療開始の計画で進行。

▼防災情報センターの建設は、国からの交付決定を待つて事業に着手、消防機能の仮住まいのため引越し

作業や仮車庫の設置、消防庁舎の解体と進める予定で準備を進行中。
 ▼十三年度の生産調整面積が配分され、百三十七ヘクタールと十二年度より十一ヘクタール増加した。
 ▼ゴミ対策で環境保全審議会の二回目を開催し、年度内に可燃物の試験収集もを行い、適切な処理の方向を図る予定。

▼村の事業に借り上げしていた車両の件で、捜査当局から村も事情聴取された。その行為が道路運送法違反の疑いで業者が書類送検されたが、村としてはその習慣的な借り上げ手法が違反

であったことから、今後このような事のないよう充分留意し事業の進捗を図る。

▼成瀬ダム事業は基本計画の公示に向け六省庁協議が進行中で、村でもダム周辺整備計画の策定作業を進めている。
 地元住民が、ダムが出来ることによる生活環境の変化に対する不安やどのような要望があるのかを実際に生の声を聞き、今後の計画に組み込むため座談会を開催した。

▼幸寿苑で十三年度に予定している大規模改修事業が、諸手続きを終え、次年度着手に前進。
 ▼秋田栗駒リゾート(株)については、栗駒山荘の営業は昨年実績を上回る見込みである。

ホテルプランは料理が好評で、目的達成に努力中。スキー場は、誘客増を図るべく営業を展開中である。

統合小学校

児童用机・椅子を木製に一新



教育長

▼間伐材用途開拓実証事業で統合小学校の児童用机・椅子を木製に一新することで予算を計上。
 ▼統合小学校の校舎改修・増築工事は十月二十七日で完了した。
 現在はパソコン教室として使用するため、校内LAN構築の工事を行っている。

▼閉校に向けた取り組みは、各地区の実行委員会が小学校毎に記念碑を建立し、除幕式が行われた。
 閉校記念誌は、各地区で編集作業が進行中である。

▼閉校となる各学校の歴史保存の一環として、校歌のCD化を計画している。
 ▼統合小学校の校章は十月十一日の選定委員会できやく決定することができ、校旗作成に向け準備中。
 ▼IT関連予算で村でも、補助を受け事業を進めることとなった。
 文部省補助事業で、インターネットに習熟してもらうためのものである。
 ▼村民スポーツ祭を五週間にわたり実施、昨年度に比べ若干の増加があった。

常任委員会です

「二つある「常任委員会」の閉会中の調査活動などのうち
主な活動について特集しました

村でも予定しているオフトーク通信を福島県・長沼町に視察

総務教育民生常任副委員長 佐々木謙吉

総務教育民生常任委員会は、十一月二十一日、二十二日の両日、産業建設常任委員会と合同で福島県・長沼町、宮城県・田尻町の二町を視察、当委員会では長沼町を視察した。

導入については、
月々の個人負担で難航

平成二年、電話回線を利用するオフトーク通信の設置を検討、N.T.Tから概要説明と見積書の提出を受け、

先進地視察を実施。
平成四年から各地区毎の説明会を開始したが、反応



総務教育民生常任委員会

は鈍かった。
このため、行政区域長会議を開催し平成五年度導入に向け加入者の取りまどめを実施した。

しかし、加入率はなかなか伸びなかった。
議会としては、七十%以上の加入率がなければ、町事業としての導入は見送ることとしていた。

最終的には七十五・四%の加入者があり、導入を決定した。

加入率の低い要因は、月々の個人負担金(原則的には月五百円であるが、町としては個人負担を二百円としている)であるとの説明であった。

チャンネル数を三回線とし自主番組も制作

放送の視聴率向上を図るため、平成六年にオフトーク通信室を設置し、スタッ

フ三名で三チャンネルを使用しながら、自主番組を制作し放送を開始している。近年視聴率が伸び悩んでいるのが課題である。

平成十年の豪雨災害で、情報伝達が的確に行われ改めてその機能を評価しているとの説明があった。

以上、事業紹介にしば

た報告であるが、わが村でもこの事業の導入を検討しており、今までの広報無線とは大きく異なり、利用方法によっては大変便利なシステムであると感じた。

情報化の現在、次世代の広報システムとして大いに期待できるものと思いがながら、研修視察を終えた。



福島県・長沼町にオフトーク通信を研修

こんにちは

宮城県・田尻町パークゴルフ場を視察して

産業建設常任委員 伊勢谷政雄



パークゴルフ場を視察

(宮城県・田尻町)

秋晴れの十一月二十一日から二十二日と総務、産建の合同視察を行った。村は現在カントリーパーク事業を進め、その中心となるパークゴルフ場の工事を進めている。その先進地である宮城県田尻町で、たじり稲波公社が

運営するパークゴルフ場を現地に学んできた。

ゴルフ場は町の中心地から五キロメートルほど離れた山の斜面を利用し造られた。三十六ホールコースがあり、年間四万人程の利用者があるとの説明で、一般的には河川敷や公園に造られることが多いとのことであった。

パークゴルフはクラブ一本で行うもので、球を打っても飛ぶこともなく危険は少ないと感じた。

子供から高齢者まで楽しめる家族でも楽しむこともでき、健康にもストレス解消にも効果があると言われているようだ。

運営面では課題もあると説明を受けた。

今後村が取り組む上でどのようにPRするのか、指導者の育成、また村民の参加を得るためにはどうすべきか、利用料の設定などが課題となるのではないかと感じた。

村内の道路などの視察について

十一月二十四日に、今年度実施している村内の道路工事や建築工事の進み具合など現状を視察した。

全体的には計画どおり進んでいたが、一部で工事前の関係者との確認や調査の

面で不十分ととられる面も見受けられた。

道路工事について、降雪前に舗装工事完成まですべきとの意見が多く、担当としても新年度からの取り組みに努力したいとの説明を受けた。



産業建設常任委員会

スポット

こんな質疑がありました



紅葉シーズンでにぎわう栗駒山荘

一般会計補正予算に対する主な質疑

栗駒山荘の

保険料追加

高橋健議員 栗駒山荘の露天風呂の保険料の追加は、総務課長 今まで建物に一括して保険加入していたが、構造が違うので別々に入らなければならぬので、分離しての保険加入である。

公共施設解体

委託料減の理由

富田議員 当初予算に百五十万円を置き、九月補正をし、今度は減額するということがどういふことか、理由を聞く。

総務課長 計画では、旧田子内保育所、旧椿川保育所と御台の岩井川児童館の三箇所を解体する予定で予算を置いたが、不足し九月に補正した。実際に解体したのは二ヶ所の旧保育所で、岩井川児童館は解体しない

で、成瀬木材加工から貸してほしいとの申し出があり、貸しているために減額となった。

役場の前の

桜の管理は

柳議員 財産管理費で桜の冬囲い予算を減額しているが、役場の前の桜は病気の枝もあるようだが、この処理に減額しないでまわす考えはないのか。

総務課長 庁舎の後ろの桜植栽・冬囲い・解体の委託料に置いたもので、小学校の前の桜と合わせて管理方法を検討していく。

村のこみ処理に関する

ポスターに一考を

伊勢谷議員 村のポスターは、もっと分かりやすいようにひと工夫あるべきだよ。福祉保健課長 現在配付している一覧表は、地域の声

を反映しているものと思っ
ているが、今後検討する。

不動滝の

周辺整備は

柳議員 「不動滝の整備をしているので後で確認して下さい」とのこと。現地に行ったら藤の花の咲く木まで全部切っていた。少し考えて整備すべきでは。

商工観光課長 この件につきましては、大変申し訳なく思っております。

テレビCMの

内容は

富田議員 広告料の追加でテレビCMなどと聞いたが、この内容は、
商工観光課長 旅行雑誌とテレビCMを行う。
スキー場や観光宣伝とか宿泊施設の紹介など三十秒CMを十四回行う予定。

住民と議会のパイプ役に

議会広報対策特別委員長 谷藤 怜子

広報対策特別委員会では、昨年十一月二十日宮城県・中新田町議会へ議会広報の編集に関しての研修を行った。

中新田町議会では、公務多忙のなか、議長と広報委員全員に対応していた。説明を受け経験交流をした。

この議会の広報編集は読者（住民）が関心を持ち読んでもらえるような紙面と、常に住民と議会のパイプ役になれるように考えて編集しているとの説明がされた。

一回の定期発行につき十二〜十六ページの編集で、住民に直接関係の深いものを重点的にとりあげて、年四回の定例会毎に発行しているとのことであった。

環境保護の観点から、再生紙を使用しているとの説明があった。



宮城県・中新田町に広報委員会が研修

こんにちは 広報委員会です



議 会 日 誌

（9月定例会より12月定例会まで）

- 10月6日 県南高規格道路要望会
- 10月8日〜18日 県町村議会議長会海外行政視察
- 10月13日 東成瀬中学校模擬議会
- 10月17日 議会広報委員会
- 10月25日 主要地方道横手東成瀬線要望会
- 10月26日 村出稼ぎ安全就労祈願祭
- 10月26日 村議会委員長等会議
- 10月29日 村産業文化祭授賞式
- 10月29日 村社会福祉大会
- 10月31日〜11月1日 県南四郡町村議会議長会連絡協議会
- 11月2日 皆瀬村議会議員と議員交流研修
- 11月3日 東成瀬小学校記念碑除幕式
- 11月3日 大柳小学校閉校記念事業（記念碑除幕・語る会）
- 11月4日 村交流発表会
- 11月6日 県町村議会広報研修会
- 11月6日 山形新幹線大曲延伸総決起大会
- 11月9日 県高規格道路整備促進中央大会
- 11月10日 全国鉄道整備促進協議会
- 11月13日 知事と県南地区町村議会議長との行政懇談会
- 11月14日 郡町村議会議長会要望会
- 11月15日 第25回豪雪地帯町村議会議長全国大会
- 11月15日 第44回町村議会議長全国大会
- 11月15日〜17日 郡町村議会議長会研修視察
- 11月19日 椿川小学校閉校記念碑除幕式
- 11月19日 岩井川小学校閉校記念碑除幕式
- 11月20日 議会広報委員会先進地視察
- 11月21日〜22日 常任委員会合同先進地行政視察
- 11月24日 産業建設委員会村内工事状況視察
- 11月28日 議会運営委員会
- 11月28日 全員協議会
- 11月28日 第7回臨時会
- 11月28日 平成12年度東成瀬村議会行政懇談会
- 11月29日 第13回稲川分校を考える会
- 11月30日 村環境保全推進審議会
- 12月7日 議会運営委員会
- 12月8日 村商工会年末懇談会



「新世紀を迎え」
私もひと
私ひとり



五里台 高橋栄作さん

新年あけましておめでとうございます。

今年、これから始まろうとしている21世紀の幕開けの年でもあります。

我が村でも、道路整備・公園・環境・通信・上下水道整備など、数多くの事業がなされ、されようとしております。

住みよい環境、生活が便利になり大変良いことと喜んでおります。

つい、20～30年前までは想像も出来なかったこと「交通・電気・通信」など様々な分野で進歩してきました。

これからも今以上のスピードで進歩、発展していくことでしょう。

また、村ばかりではありませんが過疎、歯止め効かない少子高齢化など先行きの見えない問題が数多く残されているのも事実です。

今年の4月には100年以上続いた各小学校が閉校して、一校に統合されます。

閉校になり寂しさを感じますが、新しい小学校に児童数が増えいつまでも続いてほしいものだと思います。

そして、この東成瀬も明るく住みよい21世紀に、未来へと続いていくよう祈念します。

皆さんからの

「請願・陳情」

1のよひになりました

採択となった 請願・陳情

「一部採択」となった陳情

- ▼食料自給率の向上をめざし、減反拡大の撤回を求める請願
 - ・農民運動秋田県連合会 委員長 佐藤 長右衛門
- ▼消費税の増税計画の中止を求める陳情
 - ・秋田県労働組合総連合 議長 鈴木政隆外一名
- ▼「働くルールの確立を国に要請する意見書採択」の陳情
 - ・秋田県労働組合総連合 議長 鈴木政隆外一名
 - ・秋田県労働組合総連合 議長 鈴木政隆外一名
- ▼以上の三件の請願などは、採択と決定し内閣総理大臣
 など国の関係機関に対して意見書の送付を行った。
- ▼緊急総合米対策ならびに農産物輸入増に伴う緊急輸入制限措置発動等に
 関する陳情
 - ・こまち農業協同組合代表理事組合長 阿部 修悦
 - ・長沢山永伝寺 住職 武藤 直哉外一名
- ▼「村有地(旧田子内保育所跡地)の払い下げに関する要望」

▼「公共事業の生活密着型への転換を国に要請する意見書」提出の陳情
 ・秋田県労働組合総連合 議長 鈴木政隆外一名

臨時議会

十一月二十八日に臨時議会が招集され、

人権擁護委員推薦で議会の意見を求めること

田子内字田子内一五八 佐藤ミツ(六十八歳)

の再選に同意を受けた。

○一般職の職員の給与に関する条例改正

人事院勧告に伴い手当てを○二ヶ月減額する内容

○一般会計補正予算 防災センターに消防分署を取り込む内容

○村農村交流センターの請負契約の変更

金額を三百八十五万五千円余り追加する内容

いずれの議案も満場一致で原案可決・承認となった。

編集室

◇あけましておめでとうございます。

◇新世紀の幕が開いた。だからといって風景や人が一夜で変わるものではない。気持ちも言葉も、新たな出発が求められる。

◇規則正しい生活をしようと思っていたが、いつものようにねぼけまなぐでテレビを観て新年を迎え、初日からくずれてしまっ。

◇遅くない、これからでも今世紀に残したいもの、残さなければいけないものを整理しよう。

◇夢と目標を持ち計画をたててやろう。気がついた時が一番早いのだ。

◇農業は、福祉は、教育は、景気はどうなるんだらう。

◇統合による新生小学校の校歌・校章が決まった。子供たちの胸は期待で膨らむ。

◇食料危機への対応マニュアル決定のニュース。自給率を高める今、農村の役割も大きくなりつつある。

◇健康・食・環境に注目しながら、輝ける年になってほしい。

(委員長：高橋 健)